

No.9 飯豊連峰 夏山合宿

1975年(昭和49年)7月23日～27日

行程

- 1日目 新発田～湯の平
- 2日目 湯の平～センタク平
- 3日目 センタク平～大日～センタク平
- 4日目 センタク平～地神～丸森尾根～飯豊温泉
- 5日目 飯豊温泉～新発田

7月23日(火)

新発田発 曇り 涼風 層積雲 体調はちょっと 島津遅れる

6 ; 35 赤谷駅発

7 ; 05 第一堰堤 休憩

ザックを直す 雨がポツリポツリ降ってきた。正面の岩壁がすごい

7 ; 15 発

8 ; 15 林道に着く 休憩

雨がかなり降り始める。雲がわいている。ダムの付近に雪がまだ残っている。

8 ; 29分30秒 かみなり頭上 停滞 豪雨 体が濡れないように注意

8 ; 55 飯豊沢

9 ; 00 マイクロバスに乗せてもらう

9 ; 15 赤津沢で下りる

9 ; 30 掛留沢 看板がある もうちょい

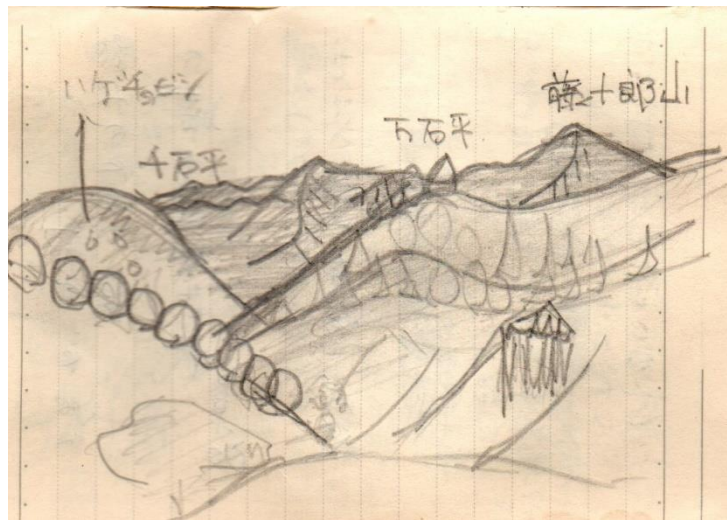
10 ; 30 北股川出合い着



北股川スノーブリッジがすごい 雪からの湯気がもうもうとして激流が飯豊川と北股川がぶつかっている。

11 ; 15 湯の平着

両側が崖でかこまれた谷に小屋 その上に幕営地がある。左岸には雪崩の爪痕が生々しい。右側は大木が立っている。幕営地は右岸でババがものすごく汚い。非常に登山者の非常識が目立つ。7月23日1時23℃



19 ; 30 寝る

7月24日(水)

6 ; 10 発 糞がよく出ない

7 ; 00 尾根取り付き地点

はしご坂の急登は大分きいた。岩が多い坂で汗がぼたぼた出た。足も重く痛かった。休憩したところは大木にかこまれたところで沢の音がする。右手に藤十郎の大雪渓が見える。

7 ; 30 鳥居峰

そこは峰じゃないような場所

8 ; 00 急な尾根の前の高台に着く。休憩 10 分。

藤十郎の大雪渓が目前である。右側は飯豊川である。楽な大斜面であった。

8 ; 50 雪渓で休憩 坂上がばて気味 暑い 雪渓は非常に冷たい 水レモン飲む

9 ; 07 発

9 ; 33 滝見場

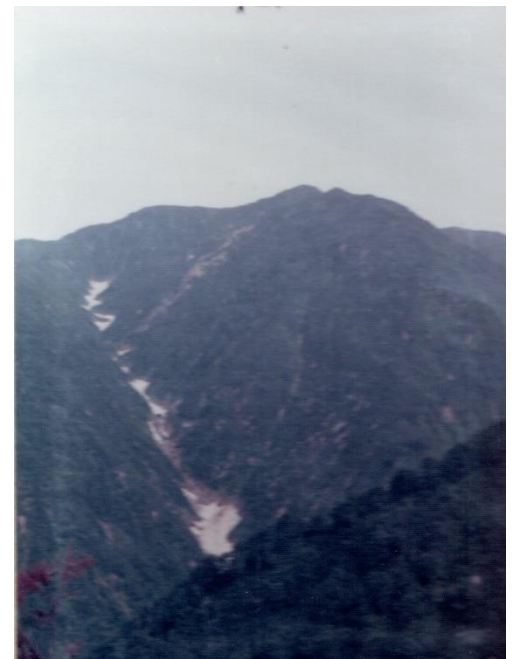
不動滝が雪渓の割れ目 相当な水の量で落下していた。ヘリコプターが飛んでいた。

9 ; 55 休憩

ビスケット 水 快晴 現場は北股川へ一気に落ちる大木の下で目前に北股の岩壁 二つ峰の雪渓、岩壁がすごい。沢の音がする。雪が多い。体調良好。

10 ; 45 中峰着

気象用の小屋が建設中である。雪渓がある。回りは笹藪である。水場は雪渓で相当したまでくだらなくてはならなかった。大日が目の前だ。天候が下り



坂。雪溪のところにニッコウキスゲが咲いていた。中峰の回りの池とモミジの藪で柔らかい草が着いている。

11 ; 20 発

12 ; 25 休憩

北股目前、大日目前 主稜がよく見える。いよいよ飯豊の核心部へ来た感じが強い。大変いい気分。天候は薄曇り。あとピーク3つでセンタク平だ。

13 ; 25 センタク平着

回りは雪溪だらけで若松商が来ていた。水場は勢いよく水が出ていた。天幕が3つついていた。

幕営地の様子

テント内19℃ 雪溪はすぐ裏と北股側の道の急斜面にあり。水は大変豊富。幕営地はちょうど高山植物のうえにありもったいないようである。非常に寒い。2時だというのに相当な寒さである。大日～烏帽子～蒜場の稜線は雲がわいたり沈んだりで面白い。寒い。



写真撮影をしている人物は杉浦英午先生

7月25日(木)

4 ; 47 発 強風 ガスが湧いたりしている

5 ; 25 梅花皮岳 新潟側が急激に落ちている 福島側からの強風

5 ; 53 烏帽子岳着 依然雲がわいている。岩が多い

6 ; 15 亮平の池 水がほんの少ししかなかった。

6 ; 30 御手洗の池 山の谷間にある 水はかなり多いようだ



稜線のトラバースは、向こう側の雪渓が不気味にクレバスが開いていて非常に恐ろしい。落ちたら終わり。依然強風。飯豊見えない。

6 ; 5 0 天狗の庭

御西直下の草が一面生えていて道が黒く削られている前、梅花皮、烏帽子の連山が見える。天幕が5つ立っていて、パッキングしているやつが居た。強風。非常に寒い。

7 ; 4 0 御西小屋

猛烈な風と水蒸気で白くなる。前はほとんど見えない。小屋は満杯なのツェルトをかぶる。

8 ; 1 0 発

高山植物 ニッコウキスゲ クルマユリ ツガザクラ ミヤマキンポウゲ
シナノキンバイ イワギキョウ ウスユキソウ コイワカガミ ショウジョ
ウバカマ ハクサンイチゲ チングルマ シシウド ムカゴ

9 ; 1 2 本山山頂

本山までの道はどこまでも広くなだらかな尾根の上に三角形に出ている山で、道は花崗岩のガレ場である。頂上はケルンが立っている。非常に風が強く霧である。特に駒形山の岩から顔を出すと飛ばされそうになった。

9 ; 2 0 発

9 ; 3 0 本山神社着

赤い屋根の小屋が手前、その奥に神社と廃小屋がある。そこでラジュウスをたき昼食。非常に人が多くなる。花も多い。昼飯の場所は廃小屋の入り口である。

1 0 ; 4 0 発 強風をつき戻る

1 1 ; 4 0 御西小屋

1 2 ; 0 5 天狗の庭

ようやく霧が晴れ気味。草付きで寝転ぶ。大変気持ちがよい。ここで写真を写す。

1 2 ; 3 5 御手洗の池

すっかり霧が晴れて、烏帽子、梅花皮

が見えてきた。下は秘奥の谷で雪渓が

ずっと下までくぐっている。実にさわやか。山田さん走り出す。二王子が見える。

1 3 ; 1 5 カブト池

山田さん全然見えず。ニッコウキスゲの群落実にきれい。主稜線なだらかな斜面とハイマツの群。飯豊のよさを満喫。藤田さんだれた。池はほとんど雪渓の下である。

1 3 ; 3 7 梅花皮岳

北股岳の峰が素晴らしい。稜線に雲わく。





13 ; 53 発

14 ; 20 センタク平

今日は、平地では33.8℃という今年最高であったそうである。ここでは、15℃まで上がることもなく寒さで震えていた。

今日の日の入りはすごかった。BC右手のピークから二王子の右肩から沈んだ。加治川が細く赤く光っていた。大日の真ん中の雪溪に「大」という大きな字が見事に浮き上がっていた。ここセンタク平付近では、一日中雲の中に入ったことはなかったそうだ。BCから見ると御西～大日のいわば飯豊の核心部は、BCが晴れていても雲に入ったままであった。さすが飯豊2000m級である。また天候の急変もすごいわずか2秒で北股が見え隠れするほどである。

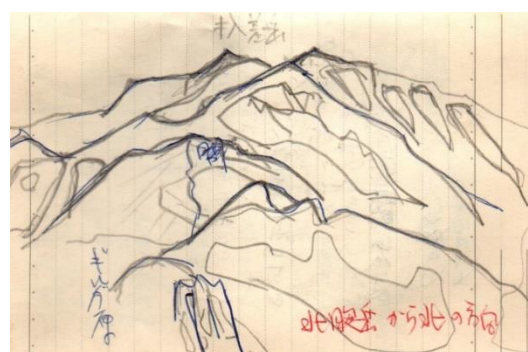
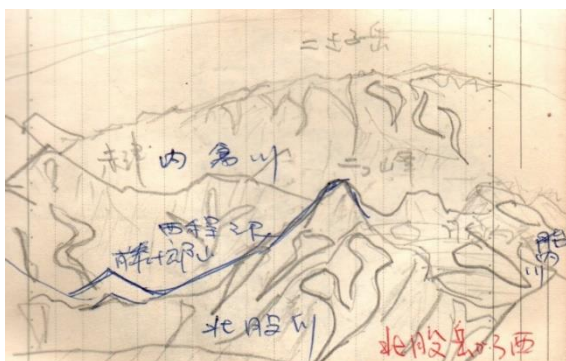
20 ; 00 就寝

7月26日 (金)

5 ; 30 発

6 ; 00 北股岳山頂

本山を抜かし大日、門内、二王子岳。本山も間もなく見える。福島県側の山波が素晴らしい。正面に赤津、奥に二王子、大日が大きい。あとはもうほとんど下りだ。石転び沢の雪溪が白く光る。頂上は鳥居とケルン3つ。



6 ; 2 0 発

6 ; 4 5 ギルダ原

7 ; 3 5 門内通過

素晴らしい草原。非常に素晴らしい。二王子が大きく見える。五頭、楕形山

8 ; 1 5 地神山

ついに新発田から見えるピークについた。残念ながら新発田見えず。二ッ峰の岩壁が素晴らしい。なだらかな草原にきれいにピラミッド型に突き出ている。



8 ; 5 0 地神発

9 ; 1 5 休憩 雪溪の下 非常に暑い

1 0 ; 0 0 のぞき着

非常に急である。丸森尾根左には大岩壁が見える。右側は谷である。とにかく暑い。体調はよい。みんながダレている。左側の道を行くと小屋になる。頂上部は雲である。

1 0 ; 4 0 出発

飯豊山荘はすぐ近くであって小屋もよく見え、川もよく見える。非常に急な尾根でガレ場であって真剣に行く。

1 1 ; 1 5 山荘着

山荘周辺の様子

山荘は梅花皮沢（*玉川の誤り）の左岸に約5棟ほどの藁葺きの小屋が建っていて、便所、炊事場、温泉、宿泊所が完備している。冷たい飲み物、ビールなども売っている。しかし高い。温泉50円、幕営一人150円、素泊まり600円。幕営地は小屋の裏にあり案外狭い。整地は案外よい。

7月27日（土）

6 ; 0 5 出発

沢の左岸が旧道。右岸が新道。旧道を通った方が変化があって面白い。

7 ; 4 5 長者原着

赤芝峡などを見て小国に着く。

経費 新発田→東赤谷 80円 長者原→小国 250円 荷物 130円 小国→新発田 240円
急行券 100円 お守り 200円

No. 10 焼峰山追悼登山

1975年(昭和49年)8月15日

6 ; 3 5 東赤谷発 高積雲 くもり

7 ; 4 5 ウグイス平

8 ; 2 5 清水釜

水はちよびちよび出ていて冷たい。

8 ; 4 5 修蔵峰

線香と花を入れる。きれいになっていた。ガスが本峰にかかる。

9 ; 0 0 発

9 ; 2 0 焼峰山着

ウジの沢、袖の沢視界0。数分後展望0となる。水を飲む。涼しい。

9 ; 5 5 東台峰通過

10 ; 5 5 昼食

11 ; 1 0 発

12 ; 2 0 四ツ倉

ものすごい藪 展望きかず

12 ; 2 5 四ツ倉発

道に迷いガスが出て一時やばかったが、中村さんの機転で助かった。小径へ通じる道は、一番左の尾根である。

14 ; 2 0 東台峰

14 ; 4 5 清水釜

14 ; 5 3 発

16 ; 0 0 駅

No. 11 砂郷沢

1975年(昭和49年)8月 単独

7 ; 3 0 家発

8 ; 4 5 砂郷沢入り口 晴れ 高積雲

8 ; 5 5 出発

9 ; 4 5 休憩

道は途中までついていてずっと河原状。しばらく行くとナメや石ころの沢となる。また、最近人が入って木が折られ、足跡あり。ここはガレ場。

- 9 ; 5 5 F 1 2 m 水は涸れて滝となっていない。左岸直登
 1 0 ; 0 8 F 2 いい感じのナメの滝 足跡多い 左岸
 1 0 ; 1 5 F 3 いい感じのナメ 1 0 m
 1 0 ; 2 3 F 4 いい感じの 2 段滝 4 m直登 上 3 m左岸
 F 5 3 段 1 2 m直登
 1 0 ; 3 0 F 6 1 0 m F 7 1 2 mナメ直登 F 8 1 0 mナメ滝
 マムシに会う
 誤って支沢に入り伐採道に着く。
 1 1 ; 3 0 ここは天神堂山の道である。
 1 1 ; 4 3 烏帽子岩
 五の峰からここまでにかけて積雲 海岸線に小さな 2 つの積雲が浮かんでい
 る。
 1 2 ; 4 0 発
 1 3 ; 0 0 見晴らし台

No. 1 2 二王子岳 一王子小屋泊

1 9 7 5 年 (昭 和 4 9 年) 8 月 2 7 日 2 8 日

同行 新発田商工山岸

- 1 1 ; 0 8 新発田発
 1 1 ; 3 0 上羽津田屋
 1 2 ; 4 5 二王子神社
 ものすごく暑くブヨがたまらない。水補給
 1 3 ; 1 5 発
 1 4 ; 1 0 一王子着
 誰も居ない。定高山、灯明沢の様子がよく分かる。水場よし。
 7 ; 0 0 起床
 9 ; 5 0 山頂着
 飯豊が見える。本山の方向ちょっと見えない。雪は東側にある。
 1 0 ; 5 0 山頂発
 1 2 ; 1 5 一王子神社 暑くてかなわない。
 1 3 ; 2 0 二王子神社
 1 4 ; 2 5 上羽津田屋